佐々木一郎氏 (1911～1983) を偲ぶ

多年，植物研究雑誌の編集兼発行人として協力された佐々木一郎氏が，去る 3 月29日午後 2 時33分消化管重積出血の肝臓障害で急逝された。享年71歳であった。日頃は極めてご健康であったのにまことに痛惜の極みである。

佐々木氏はその10日前の 3 月19日，先に日本生薬学会と東京生薬協会から受賞されたのを機会に，生薬仲間のうけら会の主催で 30 余名が集まり，心ばかりの祝賀の宴を開き，大変ご満悦でお別れしたばかりであった。

佐々木氏は明治44年10月東京の生れで，昭和 7 年 3 月明治薬学専門学校（現・明治薬科大学）を卒業し，同年 4 月東京帝国大学医学部薬学科選科に入学，その翌年春選科修了後，同医学部介補嘱託として薬学科生薬学教室に勤め，朝比奈泰彦教授並びに藤田直市助教授の指導を受け，専ら生薬解剖学的研究の傍ら東京植物同好会に入会し，牧野富太郎先生に師事して野外の植物を観察すること多年，よく植物の自生地を知り，生薬研究者に正しい材料の供給に寄与された功績は大きい。

しかし自らの研究をまとめて発表することを好まず，私の知る限りでは地衣類の分類に関する報文（植物研究雑誌18巻 626 頁，昭和17年）の 2 ～ 3 を見るに過ぎない。

昭和18年秋，私は太平洋戦争の苛烈化に伴い軍当局の要請で急遽陸軍衛生材料本廠に応召・勤務するに当り，佐々木氏を私の後任に迎えた。佐々木氏は本誌の編集兼発行人となり，傍ら生薬の研究や薬用植物の栽培につき調査研究されたが，これらは漢方友の会発行の月刊誌「活」に「庭に植えて重宝し鉢に植えて観賞できる草木」として連載し，24巻12号（昭和57年12月号）の其66で絶筆となった。

また，財団法人金匱会で毎年主催する漢方生薬講座では，佐々木氏が生薬の基原と性状，田口平八郎氏が生薬の成分，高橋国海氏が生薬の薬効を講義し好評だった。

私とは上述の通り編集同人として永い交友ながら，もともと無口なお人柄でエピソードに乏しく，日頃リュックを担いで歩き廻っておられた印象が強い。昨年，相模原に新居を建て，移転された許りであった。

ここに謹んで哀悼の意を表し，ご冥福をお祈りしてやみません。　(木村雄四郎)

*　　*　　*　　*

Mr. Ichiro Sasaki, Member of Editorial Board of the Journal, has passed away on March 29th, 1983 at the age of 71.